

平成 30 年 4 月 教育委員会会議録 第 5 回

- 1 日 時 平成 30 年 4 月 17 日（火） 10 時 00 分～11 時 45 分
- 2 場 所 教育長室
- 3 出席者 教育長 太田耕樹
委員 松村英勝・埤本友造・平沖純子・向井智恵
- 4 出席職員 河本教育次長・新谷学校教育課長・福嶋生涯学習課長・藤原主幹
肥田係長（記録者）

開会 太田教育長 開会を宣する。

1. 教育長報告

- (1) 「教育長挨拶」について
坂町ホームページ記載の「教育長挨拶」により、要旨や考え方を説明。
- (2) 平成 30 年度 第 1 回広島県市町教育長会議について
会議記録及び配付資料抜粋により、概要説明。

2. 議題

- (1) 議案第 7 号：平成 30 年度教職員研修の方針について
藤原主幹から、平成 30 年度坂町教育委員会主催研修一覧により、概要説明。

各委員とも、異議なし。 (議決)

- (2) 議案第 8 号：坂町社会教育委員の委嘱について
福嶋生涯学習課長から、人事異動による変更のあった坂町社会教育委員名簿案について、概要説明。

各委員とも、異議なし。 (議決)

- (3) 報告・協議 1：坂町教育委員会事務局事務分掌について
河本教育次長から、平成 30 年度事務分掌表等により、概要説明。

- (4) 報告・協議 2：平成 29 年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について
河本教育次長から全体的部分、新谷学校教育課長から学校教育部分、福嶋生涯学習課長から生涯学習部分の事務局原案を概要説明。

(松村委員)

これについて、今後のスケジュールはどうか。

(河本教育次長)

5月の連休明けくらいに、林教授に評価いただき、5月の教育委員会会議で議決を諮りたい。その後、6月の坂町議会で報告したい。そのために、事務局原案を委員の皆様へ事前配付し、意見をいただき完成させたい。

(太田教育長)

昨年も検討課題となっていたが、評価区分のA B C Dについて感覚的な要素が大ききように思う。9%増が大幅増かどうかは感覚的なものだと思う。客観的にするのであれば「何%」と数値を挙げた方が良く、抽象的なら、例えば国際理解教育の推進の数値で見ると、小学校は目標値が高い中9割程度達成しているし、中学校は目標値が低い为上回っているのだから、「ほぼ達成」に値し、B評価でも良いように思う。どのように捉えて評価するのが非常に難しい。難しいから毎年悩むようになっている。悩むのであれば、評価区分を明確にすることも必要なのではないか。もしくは、林教授に評価をしてもらう方法もある。それでは自己評価にならないのであれば、坂町としての評価を示した上で、林教授の見解を聞くのも良いのかもしれない。一つでも下がったら総合的に評価されないのかというと、そうではないと思う。1,200人の目標値に対し、1,170人だった場合、本当にC評価なのか。前後5%~10%の誤差をどう見取るかであり、その範囲であれば達成としてB評価でも良いのではないかと思う。それらの整理をした評価区分にしないと、議会で示した際「何でCなのか、Bでも良いではないのか」という意見も出てくる。誰が見ても納得する妥当性を持たすために、今後、来年度に向け検討させていただきたい。

(向井委員)

自己評価というのは、それぞれの課長がしているのか。

(新谷学校教育課長)

原案として、課長が示しているが、この会議において変更していただき決定するものである。

(太田教育長)

全国学力調査の目標値にしても、全国平均が底上げされており、そこから5ポイント上回るには相当の努力が必要となる。例えば、全国平均以上であれば「達成」とするとか、3ポイント上回った場合はA評価とするなど妥当性を持たせた評価としないと、単なる作業で終わってしまっていることになる。少し

時間をいただき、事務局で検討させていただきたい。

(松村委員)

A B C Dで評価した時に、誰が見ても納得できる説得力のある指標区分とすることが必要だと思う。

(太田教育長)

現在の評価指標で評価できるものとできないものがある。本来なら、各目標に対し、それぞれの評価指標を定めておくべきだが、見やすくするために全体を網羅する形の指標となり、抽象的な基準となっていることが大きな課題だと考えている。

(平沖委員)

BとCの指標には、それほど差が無いように感じる。Cを削除し、A目標は十分達成された。B目標はほぼ達成された。C目標は全く達成できなかった。という3段階でも良いように思う。目標が達成されていないなくても、それに準ずるだけの数値であればほぼ達成となりB評価となる方が良いのではないか。

(松村委員)

それらの意見も踏まえ、来年度に向けた課題として事務局で検討していただく。

(5) 報告・協議3：平成30年度坂町教育委員会経営計画（案）、教育委員会自己評価表（案）について

河本教育次長から、事務局原案について概要説明。

(新谷学校教育課長)

目標値についてだが、「坂町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、全国学力調査の全国平均を5ポイント以上上回る、坂町悠々健康ウォーキング大会参加者数1,200人と示しているの、それを変更するには根拠をもって進めていかないといけないと思う。

(太田教育長)

「坂町まち・ひと・しごと創生総合戦略」で示している5ポイントや1,200人は変更する必要はない。5ポイントに対し、または1,200人に対して何%上下した場合A評価なのか、B評価なのかという基準を設けておくことが必要だという事である。この総合戦略の次回改訂時に5ポイントや1,200人が妥当かどうかを検討し、変更をすれば良い。例えば、全国学力調査でみれば、全国的な状況と5ポイント以上というのが合っているのかを整理しておかないと、前

年通りを続けていると時代にマッチしていない数値となる。逆に予算が関係してくる町内史跡の案内板設置数は5基と決まっているのだから、毎年5基ずつ設置すれば達成されるのでA評価となる。それらと同様に評価をしようとしていることが矛盾している。その矛盾点等を整理することで良いものとなるのだと思う。当然、変更できる部分とできない部分はあると思う。変更できない根拠があるのであれば、それに基づいておけば良い。しかし、変更できるからといって、80%の目標に対して結果が82%だったから翌年は85%の目標に、また上回れば更に目標値を上げていくという形だと限りなく100に近づく事になる。そのようなぶれた目標設定は、林教授が評価する際に難しくしている。林教授も坂町をもっと良く評価したいと思われているのではないかと感じる点があるが、低めの評価しかできない状況となってしまっているのだと思う。この部分についても、林教授と相談しながら検討していく必要があると思う。

(松村委員)

教育長が言われるとおりでと思う。林教授の意見も聞きながら、変更できる部分は変更していく方向で検討してもらいたい。他に何かあるか。

(藤原主幹)

「確かな学力の向上を図る。」欄の目標値についてだが、平成29年度までは、全国学力調査と広島県基礎・基本定着状況調査の2項目を記載していたが、平成30年度は基礎・基本定着状況調査が実施されないため、全国学力調査のみとしている。しかし、坂町では町独自の学力調査を実施している。全国学力調査は4月に実施されるので、平成30年度の取組として見取りづらい。しかし、坂町の学力調査は12月及び1月に実施するので、その年度の取組状況が見取りやすいと思う。また、経年比較用に同じ業者による学力調査を実施しているので、年度を跨いだ見取りもできる。これを基礎・基本定着状況調査の代わりに挙げることもできる。ただ、全学年実施している学力調査なので、全学年を対象とするのか、全国学力が高学年なので低学年とするのか、または、基礎・基本定着状況調査の代わりなので小学5年と中学2年とするのか等は、検討が必要である。

(新谷学校教育課長)

「家族愛・郷土愛の醸成」欄においても、全国学力調査の質問紙内容で掲げているが、質問紙の中には朝食を食べているかどうかの内容もある。毎日朝食を作ってもらい食するというのも家族愛の一つであるし、食育としての取組内容でもあるので、それを加える事も学校教育課としては検討している。

(河本教育次長)

学力調査については、全学年を対象を広げて見取るよりも、基礎・基本定着状況調査の代わりとするなら、小学5年と中学2年とした方がこれまで同様に見

取りやすいように思う。

(松村委員)

それらを踏まえた事務局原案を作成いただきたい。そして、平成 29 年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書とともに、各教育委員に事前配付いただき、5 月の教育委員会会議で議決を諮りたいと考えている。よろしく申し上げます。

3. その他

(1) 主任の命課について

藤原主幹から、平成 30 年度小・中学校主任等の命課一覧表により、概要説明。

(2) 「青少年育成坂町民会議総会&あいさつパレード」について

福嶋生涯学習課長から、概要説明。

(3) 広島県女性教育委員グループ 平成 30 年度総会・第 1 回研修会について

新谷学校教育課長から、本グループから情報提供のあった日程等について、概要説明。

(4) 「図書館こどもまつり」について

福嶋生涯学習課長から、概要説明。また、平成 30 年 6 月 9 日（土）に Sunstar Hall にて公演される歌舞伎について、紹介と協力依頼。

(松村委員)

本日の議題は以上だが、その他に何かあるか。

(新谷学校教育課長)

まだ、案内状は届いていないが、5 月 26 日（土）には、各小学校の運動会がある。各学校から案内状が届き次第、教育委員の皆様にお届けするので、よろしく申し上げます。最近では、なかなか案内状を一般の住民に届ける事が難しくなっており、以前はお年寄りの家に配布していたのだが、住民の方から「なんで住所を知っているのか」という個人情報漏洩を危惧する声もあると聞いている。

(平沖委員)

敬老席はなくなったのか。

(松村委員)

敬老席は設けてある。しかし、案内は送付しない。先日、小屋浦地区の理事会においても、それが話題となった。やはり、個人情報の流出は良くないとい

う見解であった。子どもたちがお年寄りに手紙を書いて配る。教育の場で絆を深める、とても美しい事だと思うので、理事会において、何か良い方法はないかと提案したが一蹴された。

(平沖委員)

敬老席には、誰が行っても良いということか。

(松村委員)

そうである。

(向井委員)

以前は、配布された手紙を持って行き、敬老席に入るという形であったのだが。

(平沖委員)

敬老席に来られた方に記帳していただくのはどうか。学校側から、「後日、子どもたちからお礼の手紙を書きたいのですが」と伝えて書いていただく。自ら名前と住所を書くので、個人情報流出にはならないし、書きたくない方はそれでも良いという形はどうか。

(松村委員)

平沖委員の提案は美しいと思う。そのように別の取組ができないかを理事会でも協議したかったのだが、いとも簡単に「できないなら、やらない」となってしまった。

(新谷学校教育課長)

以前、保育所ではポスターを作成し掲示して周知していた。また、各地区にある回覧板に案内文書を入れさせていただくなど、各学校も工夫が必要だと思う。あれもダメ、これもダメという形だと、地域との結びつきや開かれた学校の観点から逆行してしまう。子どもたちの教育現場を温かく見守っていただき、育てていただきたいので、今日いただいた意見を含め、学校長に伝えていきたい。ありがとうございました。

(松村委員)

次回の教育委員会会議の日程を確認する。

5月17日(木) 9:30～ 教育長室

閉会 太田教育長 閉会を宣する。